

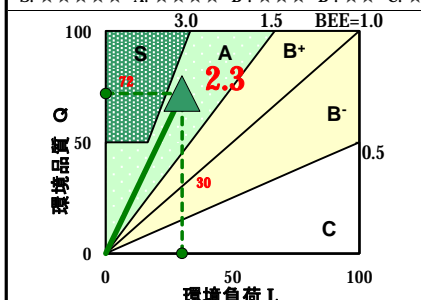
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)高槻市宮富寺住宅建築事業(2区B棟) 新築工事	階数	地上11F
建設地	大阪府高槻市富田町	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	448 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年11月 予定	評価の実施日	2024年3月27日
敷地面積	5,650 m ²	作成者	株式会社長谷工コーポレーション 大阪エンジニアリング事業部 上田
建築面積	2,344 m ²	確認日	2024年3月27日
延床面積	7,277 m ²	確認者	株式会社長谷工コーポレーション 大阪エンジニアリング事業部 新山



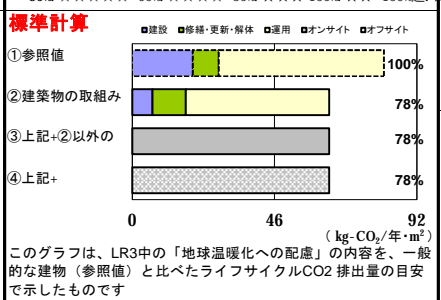
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.3

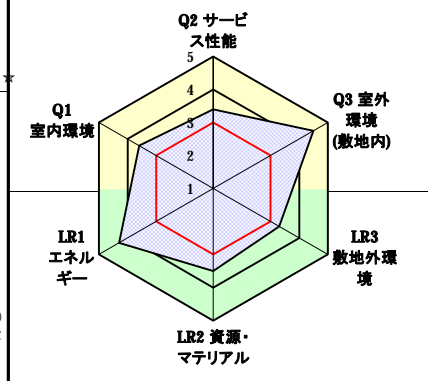
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

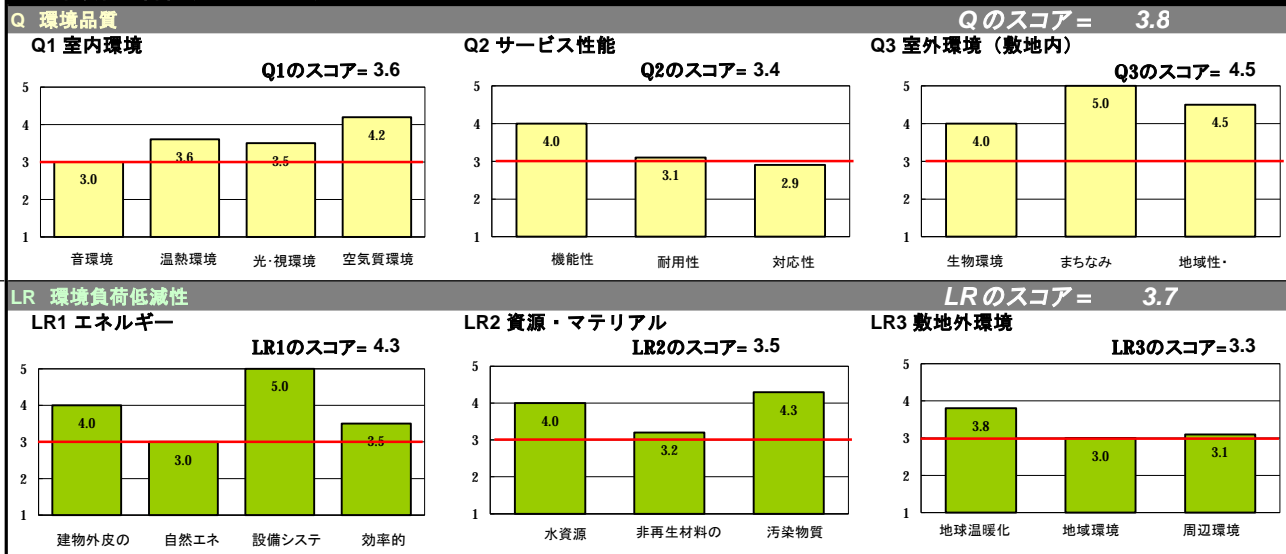
30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
環境と負荷軽減に配慮し、緑地を確保し緑量感のある計画を行っている。		
Q1 室内環境 室内環境の向上を目指し、F☆☆☆☆建材を使用している。	Q2 サービス性能 劣化対策等級3など耐久性に優れた建物としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地境界沿いに緑化を行い、周囲への景観に配慮してる。
LR1 エネルギー BEI=0.78であり環境に配慮した設計を行っている。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない建材を利用している。	LR3 敷地外環境 適切な駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)高槻市宮富寿栄住宅建替事業(2工区B棟) 新築工事								
建設地		大阪府高槻市富田町								
用途／区分		集合住宅								
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A			
①	CO2削減						4			
②	みどり・ヒート アイランド対策						4			
③	断熱性能							4		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分						4		
④	エネルギー消費性能							5		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	 評価対象外					2 評価対象外		
⑤	自然エネルギー直接利用							○		
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—	
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—	

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	4.0	4
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	5.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		